

郷土に尽くした苦勞人庄屋 梅谷七右衛門清政 6

清政は、貧しい生活を共に苦勞してきたかけがえのない愛妻を失いました。その清政に度重なるようにまたもや大きな不幸が訪れます。



▲本荘中 地藏菩薩立像
江戸時代



▲魚介類供養塔
寛延3年(1750)
町指定文化財

梅谷七右衛門孟政と魚介類供養塔

清政は跡継ぎの男子には恵まれませんでした。梅谷七右衛門孟政(以下「孟政」)は8番目に生まれた男子でした。それまでに生まれた7人のうち、6人までが女子、残る1人の男子は満3歳で亡くなりました。したがって孟政が清政にとって希望の星であったことは想像に難くありません。孟政は元禄8年(1695)の火事で焼失していた地藏堂と地藏菩薩立像を再建・修復しましたが、そのわずか2年半後の延享5年(1748)2月、32歳の若さで亡くなりました。残された父親、清政の悲しみがどんなに深かったか、察するに余りありません。

清政は蓮花寺に孟政のための供養塔を建て、菩提を申しますが、2年後の寛延3年(1750)、地藏堂の境内に魚類成仏の供養塔として立派な宝篋印塔(魚介類供養塔)を建てて魚類の霊を慰めました。魚問屋を生業としていた清政にとって息子の若死に、自分たちの魚類殺生の祟りとも考えたのではないのでしょうか。

魚介類供養塔の調査

魚介類供養塔の案内板には「現在の地に移転する際に中から銅板に記した願文が現れたが読解せずに再び収めた」という内容のことが書いてあり、その後詳しい調査は行われませんでした。しかし平成7年(1995)1月の阪神・淡路大震災により塔は倒壊し、収められていた「銅板銘」が再び日の目を見ることになりました。内部にあった銅板(願文)を播磨町漁業協同組合のご厚意により郷土資料館で預かり、調査させてもらうことができました。

▼問合せ 播磨町郷土資料館 ☎079(435)5000

館長 井上珠彦

町制施行60周年記念 ロゴマーク

たくさんのご応募ありがとうございました

▶問合せ 企画グループ ☎079(435)0356

令和4年4月1日に町制施行60周年を迎えることを記念して、記念事業やPRグッズなどに使用するロゴマークを9月から11月にかけて募集しました。

その結果、海外を含め全国各地の6歳から87歳までの方々から計179作品をご応募いただき、選定委員会の審査により次のとおり決定しました。

▶採用作品の作者 原田 菜摘 さん(大阪府在住)

▶作品の説明

「播磨町」をイメージできる大中遺跡や灯台のモチーフ、60の数字の部分に顔を描き、「協働」する人々を表し、「まちづくり」をイメージした建物を入れデザインしました。

親しみやすい雰囲気になるように、全体的に丸くやさしいロゴマークにしています。



福祉と防災に関する研修を4 コミセンで実施しました

播磨町では、避難行動要支援者の避難支援として、防災と福祉の連携促進事業に取り組んでいます。2021年の秋に4つのコミセンで自治会、自主防災組織、民生児童委員の皆さんを対象に研修会を開催しました。

播磨町では、避難行動要支援者(高齢者や障がい者など、災害時の避難行動や避難所などの生活が困難な方)の避難支援についての事業を進めています。2021年夏には、民生児童委員の皆さんにご協力いただき、町内で悉皆調査を実施しました。その結果、町内に1300人以上の避難行動要支援者がいらっしやることがわかりました。これらの情報は自治会ごとに分けた名簿にし、希望される自治会にお渡ししています。今回、災害時に地域でどのような準備ができるかについてコミセンごとに研修会を開催しました。普段、顔は合わせない「防災」について話す機会は少ないように、「訓練の見直しが必要」や「日頃の見守り活



▲研修会の様子(東部コミセン)

動を進めたい」など様々な意見がありました。災害はいつ起こるかわかりません。大切なのは、避難行動要支援者に限らず、いざというときのために個人、家族、地域で備えておくことだと思います。そのためにも、例えば社会福祉協議会が支援する支え合い連絡会を定期的開催するなど、日頃の見守りや話し合いの場が大切だと思います。

【まちづくりアドバイザーとは】 播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

まちづくりアドバイザーがお届けする
まちアド通信 企画グループ
☎079(435)0356

お詫びと訂正

1月号で『愚胸記』のふりがなが誤ってしていました。正しくは『愚胸記』です。お詫びして訂正します。 広報はりま 4.2